

第 5 回神奈川県住宅政策懇話会での議論要旨について

第 5 回 令和 3 年 11 月 15 日（月）10:00～12:00（WEB システムによる会議形式）

主な議題・論点

- 神奈川県住生活基本計画（賃貸住宅供給促進計画、マンション管理適正化推進計画）について

を主な議題として、ご意見をいただいた。

委員から頂いた主なご意見

- 神奈川県住生活基本計画（賃貸住宅供給促進計画、マンション管理適正化推進計画）について

< 神奈川県の住生活をめぐる状況について >

- ・ コロナ前の 2019 年（令和元年）と、コロナに入ってから 2020 年（令和 2 年）
ということ認識して人口移動の状況を比較すると、人が動くという点においては
20～30 歳代に注目すべきだということが分かった。50 歳代を超えると、コ
ロナ前でもコロナ後でも、大きな動きがない。
- ・ おそらく 20 歳代は単身で動いており、30 歳代と 40 歳代前半あたりは、10 歳未満
の子ども達も一緒に動いている。
- ・ 20 歳代は、コロナ前であっても、後であっても、田舎から都会へ行きたがり、30
歳代以降は、逆に都会から田舎へ移っていくのではないかと。特に、子育て世帯が
子どもを連れていく形が見えてきたと思う。
- ・ 県内の都市部と地方部の、アフターコロナのまちづくりや、県営住宅の運営、人
口誘導策について見えてくるのではないかと。
- ・ 20 歳代が東京への移動を少し抑制している。つまり、通勤や通学のために東京へ
移動するということをしなくなっている。おそらく、リモート授業やリモートワ
ークに関連していると思う。
- ・ 30 歳代がより多く、県央や湘南に移ってきている。住宅の持ち家取得か賃貸かは
分からないが、より広い住宅を求めて、これまで狭くても利便性を重視していた
ところから、少しウェイトが変わってきたのではないかと。
- ・ 20 歳代が実家に住んでおり、そこから通勤・通学の利便性の良いところへ移動す
ることを控えているとすれば、コロナが終息したあとに、また動く可能性があ
る。しかし、30 歳代あるいは 40 歳代が住宅取得を目的として郊外に展開するとい
う動きに関しては、一度動いた人は、また元に戻ることは、あまりないかもしれ
ない。
- ・ リモートでの働き方が定着してくれば、このような動きが続くかもしれない。

< 神奈川県住生活基本計画の改定素案について >

資料 4 参照